



毒へびに噛まれた時の対処方法

冬から春へと移りかわり、万物が精気を取りもどす季節を迎えました。私たちも春の訪れにともない、野山に行楽に出かける機会が多くなりますが、動物も冬眠から目覚め、活発に活動を始めます。今回は多くの皆さんも関心の高い『毒へびに噛まれた時の対処方法』についてお知らせいたします。春から秋にかけては、へびと野山で遭遇するケースも多くなり、いざというときの正しい知識を日頃から身に付けておくことが大切です。



『マムシ』に噛まれた時の症状

マムシといえば日本の代表的な毒へびです。マムシに噛まれると歯のあとが2つつき、マムシではない場合には2列に数個付いていることが多いです。噛まれたら直ぐに傷跡に激痛がはしり、出血が止まらなくなります。噛まれたところが腫れ上がり紫色に変色します。さらに、血圧降下や頭痛、リンパ節の腫脹、視力・意識障害が現れ、数日後には尿が出なくなったり、尿や便に血が混じります。唇や歯茎、爪などから出血する場合があります。



『ヤマカガシ』に噛まれた時の症状

ヤマカガシは無毒だと思っている方が多いと思いますが、実際には毒を持っていますので注意が必要です。マムシのように鋭い牙はなく、長い歯があるだけなので、噛まれてもなんともない場合もあります。特に、長く噛みつかれていると奥歯から毒が人の体内に入りますので、噛まれたらすぐに離す必要があります。毒が体内に入った場合はマムシと異なり最初は痛みや腫れなどはありませんが、少し時間がたってから頭痛や吐き気、リンパ節の腫れ、歯茎からの出血、血尿などが現れます。



応急処置

1. 噛まれたら傷口から心臓に近いところ（5～6 cm）をタオルなどで縛ります。ただし、血流を確保するために10分おきに1分程度タオルを弛める必要があります。
2. 傷口から口で直接強く毒や血液を吸い出すことを何回も繰り返します。水があれば傷口からしぼりだしながら洗います。お茶などのタンニン酸を含むものを使用するとへびの毒を中和分解する効果があります。
3. 塩水で熱いシップをすることは良いですが、氷などで傷口を冷やしてはいけません。
4. 噛まれた人は安静を保ち、血液中の毒素濃度を下げたり、利尿促進を計るため水分を取ることを心がけましょう。直ぐに救急車の応援を求め、近くの病院で医師の診療を受けましょう。